

## 芸術学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3年次 編入学	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	— ( 7 )		11 ( 5 )		— ( — )		— ( 1 )		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	— ( 44 )			— ( 19 )			— ( — )		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	1 ( 1 )	— ( — )	— ( — )	— ( — )	10 ( 4 )			
	退学者	— ( 1 )	— ( — )	— ( — )	— ( — )	— ( — )			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・ ( ) は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

### 1 芸術学研究科の活動

本年度、芸術系の教育・研究組織は初めて外部評価を受けることになったために、全体の実行委員会とは別個に、大学院博士課程についてワーキング・グループを中心に評価資料を用意した。4年生以上の院生しか在籍していないものの、主要な評価対象となるのは、人間総合科学研究科芸術学専攻ではなくて、本研究科となった。評価結果は、本研究科のこれまでの活動を総括することはもとより、人間総合科学研究科芸術学専攻において対応すべき指針や具体的な提言を与えられた点で意義深いことであった。とくに指摘されたのは、博士課程と修士課程の併存にからむ問題点であり、これについては早急な改善が求められよう。

### 2 教員の教育業績評価の状況

上述のように、外部評価が行われたために、研究科としては教育業績評価を行うことはしなかった。なお、学生アンケートを行った結果では、研究指導、研究室等の施設設備、コピー機の利用、研究交流、リサーチ・アシスタントの採用、カリキュラム、学生生活等、さまざまな面で多かれ少なかれ問題点があることが明らかになった。外部評価のまとめに基づいて、必要な改善に取り組む必要がある。

教育成果でもある学術誌『芸術学研究』は、毎年順調に投稿論文数ならびに掲載論文数が増加しており、平成15年度も成果が期待できる。

### 3 自己評価と課題

いよいよ本研究科の存続期間も残り少なくなったが、課程修了を目指す院生はますます意欲的に論文に取り組んでおり、平成15年度は2名の博士（芸術学）と9名の博士（デザイン学）の計11名の修了者を出すことができた。

今後の課題は、来年度に向けて現行研究科の在学生在が課程修了するように最大限の努力を傾注することである。